

## 1. 略歴

1997年3月	筑波大学第一学群人文学類考古学・民俗学専攻卒業
1997年4月	筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科文化人類学専攻入学
2003年3月	筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科文化人類学専攻単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（東京大学大学院人文社会系研究科）
2006年2月	東京大学大学院人文社会系研究科・博士（文学）授与
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助手（～2007年3月）
2007年10月	東北芸術工科大学東北文化研究センター博士研究員
2008年4月	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科専任講師
2012年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
2015年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科特任准教授
2015年12月	九州大学大学院人文科学研究院助教
2017年4月	九州大学大学院人文科学研究院准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

東北アジア考古学、先史考古学、人類環境適応史

### b 研究課題

- (1) 東北アジア新石器時代の環境適応形態に関する構造論的研究
- (2) 日露国境地帯の考古学
- (3) 環日本海北部地域における完新世先史文化変遷の通時的解明

### c 概要と自己評価

上記の研究課題 (1)・(2) に関連して、2018 年度から科研費・基盤研究 (B) 「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界」(2018～2021 年度) プロジェクトを開始した。研究課題 (1) では、ロシア国内の教育・研究機関 (サハリン国立大学・ハバロフスク地方郷土誌博物館・ハバロフスク地方歴史文化遺産保護センター等) と連携し、アムール流域・サハリン島の新石器時代遺跡群における国際共同発掘調査を実施した。研究課題 (2) では、2019 年度から稚内市教育委員会・人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設・サハリン国立大学考古学教育博物館と連携し、北海道宗谷地方における縄文時代遺跡群の実態調査を実施した。研究課題 (1)・(2) に関連して実施した発掘調査及び関連資料分析調査に関しては、2010・2021 年度に総合研究報告書『東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界 (I) ～ (III)』を3部刊行し、その成果を公開した。研究課題 (3) では、土器出現期～中世の環日本海北部地域における通史を叙述すべく、完新世初頭 (新石器時代前期) 及び紀元前 2 千年紀 (新石器時代/古金属器時代移行期) の中国東北部-ロシア極東-東シベリア-北海道 (道東北) における広域編年構築と域外交流メカニズムの解明に取り組んだ。なお研究課題 (2)・(3) に関連して、研究対象を絞り込んだ国際共同調査を実施する必要性が生じたため、2021 年度から科研費・国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 「日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明」(2021～2026 年度) プロジェクトを開始した。

### d 主要業績

#### (1) 著書

共著、小田裕樹・小澤佳憲・西江幸子・栗畑光博・渡邊誠・石田智子・主税英徳・齊藤希・丹羽崇史・徳留大輔・福田正宏・松本圭太・Amgalantugs Tsend・Ishtseren Lochin・李作婷・主税和賀子・辻田淳一郎・岩永玲・上條信彦・村の正景・藤岡悠一郎・米元史織・佐藤廉也・堤研二、『持続する志 下一岩永省三先生退職記念論文集』、中国書店、2021.3

#### (2) 論文

Fukuda, M., Shevkomud, I. Ya., Kunikita, D., Dyakonov, V. M., Gorshkov, M. V., Gabrilchuk, M. A., 「Syalakh-type pottery at the Dalzha-2 site in the Amur river mouth.」、『Записки Гродековского музея』、39、84-94 頁、2020.9  
장은혜・후쿠다 마사히로、『아무르하류역 출현기토기 연구』、『한국신석기연구』、40、63-94 頁、2020.12

福田正宏・ガブリルチュク, M・夏木大吾・國木田大・張恩惠・ゴルシユコフ, M・森先一貴・佐藤宏之・熊木俊朗、  
「ユダヤ自治州新石器時代ビジャン 4 遺跡出土の新資料—2017・2018 年度試掘調査出土遺物の分析結果報告—」、  
『東京大学考古学研究室研究紀要』、34、107-130 頁、2021.3

Fukuda, M., Gabrilchuk, M. A., Kunikita, D., Uchida, k., Jang, E., Yanshina, O.V., Natsuki, D., Gorshkov, M. V., Shevkomud, I. Ya.,  
「Radiocarbon dates in the Neolithic East Amur River basin」、『Northern Expansion of Temperate Neolithic Culture in Northeast  
Asia and Adaptation Limitations』、III、122-155 頁、2022.2

(3) 解説

森貴教・福田正宏、「中世 7 元寇防塁（箱崎） 外寇に備えた博多湾東部の石築地」、『新修 福岡市史 資料編 考  
古 2 遺跡からみた福岡の歴史—東部編—』、2020.3

(4) 学会発表

国際、福田正宏、「ロシア極東先史文化と周辺地域—日露共同研究の最新成果にもとづいて—」、동아시아 SAP 융합  
인재 양성 사업팀 講演会、釜山大学校（オンライン）、2021.2.24

国内、福田正宏、「ロシア極東の竪穴住居群と北海道について—大陸河川氾濫原の遺跡保存状態と竪穴—」、令和 2 年  
度（2020 年度）第 2 回北海道東部の竪穴住居跡群調査懇談会、北海道教育庁（オンライン）、2021.3.24

国内、福田正宏、「極東ロシアの考古学と日本列島—日露国際共同研究の最前線—」、歴史を語る③、松戸市立博物館、  
2021.12.4

(5) 啓蒙

福田正宏、「アムールの遺跡と川魚の話」、『My 舍人倶楽部』、35、2021.7

(6) 研究報告書

福田正宏・萩野はな（編）、「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界（I）—北海道宗谷地方に  
おける縄文時代遺跡群の実態調査 2019 年度成果報告書—」、2020.4

福田正宏・ガブリルチュク, M・張恩惠（編）、「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界（II）  
—ルチェイキ 1 遺跡の研究—」、東京大学常呂実習施設研究報告第 20 集、2021.3

福田正宏・夏木大吾（編）「東北アジア東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界（III）—総括編  
—」、東京大学常呂実習施設研究報告第 21 集、2022.2

(7) マスコミ

「井浦新と知る、道内の縄文土器の進化のゆくえ。」、『Pen』、2021.4.15

### 3. 主な社会活動

(1) 行政

西東京市、下野谷遺跡整備指導委員会、委員、2020.3～